

児童教化連盟 主催

ハンセン病問題 学習会

映画上映
「一人になる」

13:30

開会

14:00

映画鑑賞
(99分)



16:00

座談会
(自由参加)

17:00

閉会

・定員

先着40名

※事前申込み制
(締切:1月末日)

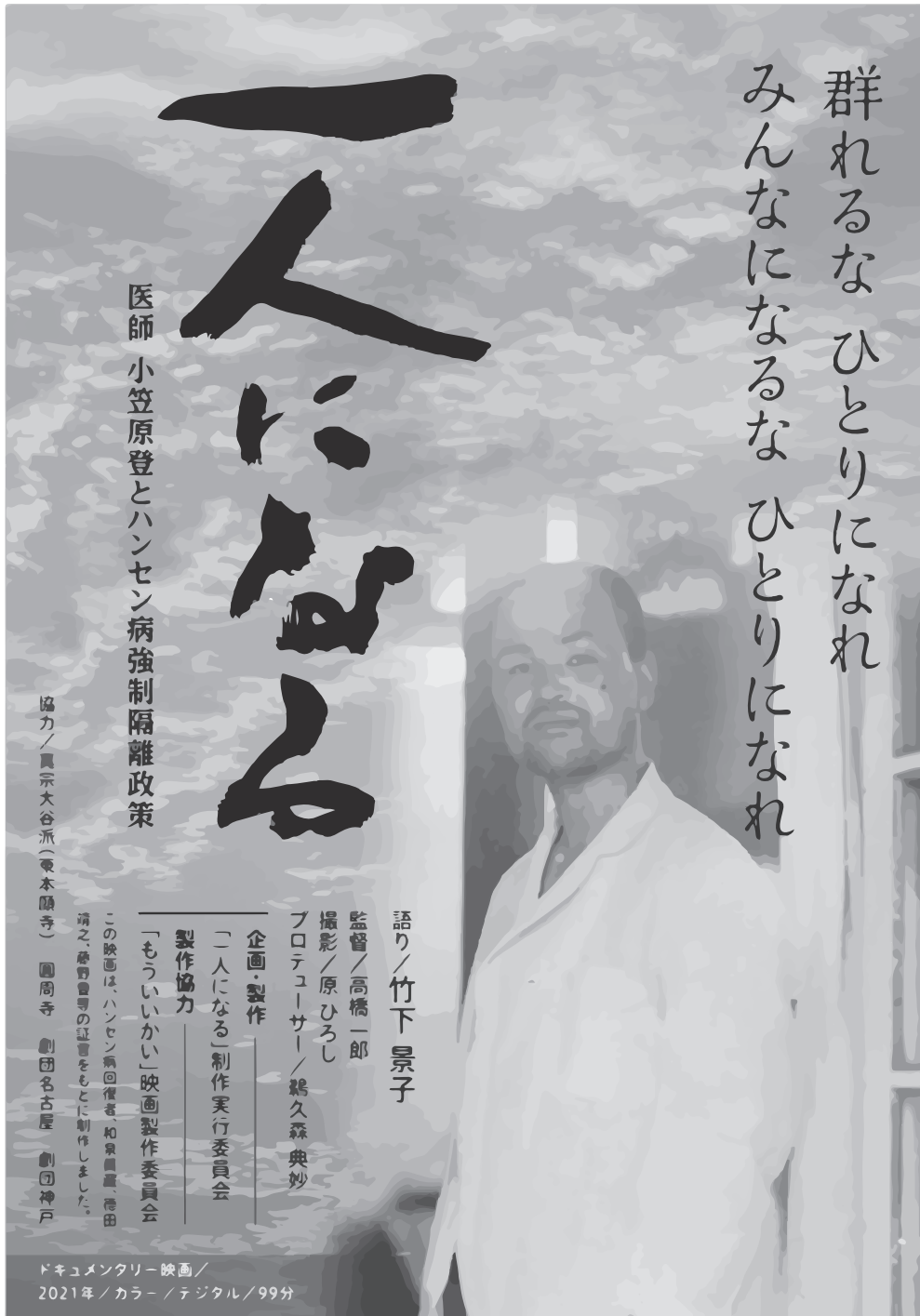
申込先:三重教務所
担当:曲(まがり)

☎ (0594)
21-8000

参加費
無料

児童教化連盟では、2015年より東海連区の仲間たちと駿河療養所に訪問してきました。「なぜ児連で行くのか?」、それは大谷派が隔離政策に協力してきたことは一つの契機ですが、そこに私たち自身の歩みの問題を見出してきたのだらうと思います。私たちは人間性を傷つけられた人の声を聞くことでしか踏み潰してきたことに気づかない。人間であることを求めた人の生き方に私たちの生き方を学ぶのでしょうか。そしてこのことは、ハンセン病においても児童教化という場でも同質の問題があると思います。問題の深まりや発見を共に人間としての独立者を目指した小笠原登氏の生涯を通してたずねていければと思います。ご参加お待ちしております。

児童教化連盟 委員長 河村 諭



群れるな ひとりになれ
みんなになるな ひとりになれ

2022年 2月17日(木) 三重同朋会館 3階講堂

午後1時半 開会 / 鑑賞後 座談会

主催: 三重教区 児童教化連盟

後援: 三重教区「差別と人間を考える」協議会

一人になる

医師 小笠原登とハンセン病強制隔離政策

ドキュメンタリー映画

この国では、ハンセン病をわずらった人たちが、人間としての尊厳を奪われ、家族たちも差別と偏見にさらされる、いのちを削らなければならない、という状況が続いてきました。

国は1907年に「癩予防ニ関スル件」を制定。ハンセン病患者を「強制隔離」するという政策をはじめました。そして政治家や法律家、宗教家やなんと医師までも、その過ちを見抜けず、無批判に「追従」してきたのです。それが1996年の「らい予防法」廃止まで、約90年も続いてきたのです。

この間、「人間回復」への闘いがこつこつと積み重ねられてきました。「ハンセン病は不治の病ではないし、遺伝でも、強烈な伝染病でもない、隔離は必要ない」と言い続けてきた一人の医師がいました。小笠原登は、一人の医師として、一人ひとりの患者に接し、患者を「隔離」から守ろうとしたのです。それは国という「厚く高い壁」の前には、小さな「抵抗」でしかなかったかもしれませんが、隔離の中で生きる人々に仄かな灯りをともしつづけたのです。

真宗の僧侶でもあった小笠原登を生み出した「土壌」と、彼をのみ込んでいった国策、それに歩調をあわせた真宗教団。そのような時代社会にあって、「ひとりになる」ことに徹することができた背景や、人との出会いを描いたのがこの作品です。

しゅ もく

撞木と鐘

ハンセン病発病は鐘の音が鳴るのと同じです。鐘の音は撞木と鐘とがうまく一致しなければ鳴りません。撞木と鐘。どちらかに欠陥があれば、叩いても音は出ない。撞木はらい菌で、鐘は体質です。日本の学会は撞木であるらい菌にばかりとらわれて研究しているが、音が出る鐘がどういふものか、つまりハンセン病発病をする体質がどういふものかを究めることの方が大事です。 小笠原 登



ハンセン病とは

ハンセン病は、らい菌による慢性細菌感染症です。らい菌は極めて病原性が弱く、たとえ菌が感染しても免疫力(特異的防御免疫)が弱い体質の人しか発病しません。この免疫力が弱い体質の人は、生活が豊かになるにつれて減少するため、社会の進歩に伴って発症者が減り最終的にはゼロになって病気は自然消滅します。現在の日本で新たな患者が事実上なくなったのは、ハンセン病のこの特徴によるものです。



群れるな
ひとりになれ
みんなになるな
ひとりになれ

企画・製作：「一人になる」制作実行委員会
お問合せ：TEL・FAX：059-396-0131
E-mail：be86@mub.biglobe.ne.jp
製作協力：「もういいかい」映画製作委員会

語り／竹下 景子

監督／高橋 一郎 撮影／原 ひろし プロデューサー／鶴久森 典妙
協力／真宗大谷派(東本願寺) 圓周寺 劇団名古屋 劇団神戸
ドキュメンタリー映画／2021年／カラー／デジタル／99分